

いかに生きるか

モーニングセミナー

今日一日、朗らかに安らかに、喜んで進んで働きます。

<制作・著作>
新居浜別子倫理法人会
TEL 0897-65-1644
FAX 0897-65-1644
beturin@mx82.tiki.ne.jp

死を真正面から見つめて 人は生きて来たように死ぬ

自分自身の充実した人生を歩みたいのなら、目の前のことにだけに囚われることなく、少し遠い先のことも視野に入れ、バランス良く進むように意識することです。

余裕とバランス

まずは、自分の目指す場所を冷静に振り返り、反省することから始めましょう。そして、今を一步一步、反省し、着実に歩める人だけが、自己の目指す場所に行き着くことができるのです。今を一生懸命生きることはもちろんですが、その先も一歩も躊躇なく歩けるように考えることも大事なことです。つまり、過去の素直な反省から目を離さないこと、少し先の中長期的予定をバランス良く取り入れることです。あらゆる面において、少し余裕を持ち、バランスを意識することを心がけるのです。

「死」を逃げず、真正面から見つめると、「生」が浮かび上がって来ます。(第百六十号から転載)

介護する人も される人も幸せに

「満足死 寝たきりゼロの思想」(高知県の僻地の町営診療所で、「満足死の会」を主宰する足田善平医師の活動)と「「平穏死」のすすめ」(終末期の高齢者に穏やかな最期をと訴える、石飛幸三医師)を紹介する 西原司講師。



平成二十四年六月二十七日(水)午前六時から第三百六十四回モーニングセミナーが開催され、愛媛県議会議員、西原司氏を講師にお迎えして、「介護する人もされる人も幸せに」と題し、ご講演頂きました。

私は福祉とは縁の薄い経営学部の出身。大学三、四年の頃、配食や介護ボランティアを経験したことから大卒後、専門学校に通い、社会福祉士となりました。郷里のデイサービス施設「でんでんむし」の管理責任者として、介護事業に携わってまいりました。一般民家を借り上げたこの介護施設の定員は十名。認知症の方々と共に、「疑似家族」の空間を作ることを目指していますが、富山市の惣万佳代子さんが始めた「デイサービス」のゆびとまれ」の理念・スタイルを参考・目標にしています。つまり、「地域に住む高齢者、障害者、児童、乳幼児など年齢や障害の有無に関らず、制度の垣根を越えて受入れる空間的な多機能性が特有の「デイサービス」を目指しているのです。認知症で介護を必要とする人は全国で二百万人以上。世界でも類を見ない高齢化が進む日本では、今後自助力を高めないうり、認知的介護や遠距離介護が社会問題化するの必至。私は、自宅で家族に看取られて尊厳のうちに最期を迎えたいと願うお年寄りを数多く見てまいりました。「満足死」「平穏死」を目指し、極力お金を使わず、医療・介護・福祉・財産を守るよう、国の縦割制行政を打破し、介護される人もする人も共に充実した生活が出来るよう、微力ながら尽くしたいと思っております。

やりたいことを

やりたいことを、どんどんやる。計画性がなくても、とにかく、今すぐに取りかかる。まず、行動することです。「半端な用意でも、どんどんやり始めて、慌てたりするのが楽しいですよ。」 by 所ジョージ



人間関係は磁石のようなもの。磁石は、N極とS極、S極とS極のように、同じ局同士だと互いに反発し合います。逆に、N極とS極のように、異局同士の場合は、お互いに引き付け合います。人の相性も同様です。お互いの相性が合えば、引き付け合いますが、悪ければ反発し合います。それは、相性であって、性格の善し悪しではなく、

人間関係と磁石 絶妙な距離感を探し出す旅

そして、N局とS局の異局同士で相性が良くても、離せば離すほど、距離に比べて引き付け合う力は弱まって行くものです。逆に、相性が悪いN局とN局、S局とS局の同局同士の繰り返しだ」と言っ

士の場合なら、極端に反発し合うものですが、それも、両方を少し離すだけで比較的穏やかに安定するものなのです。大切なのは適度で絶妙な距離感覚です。人間関係の秘訣は、「相手のベストな距離感を探索すること」に尽きるのかも知れません。人生は、そんな「人間関係の繰り返しだ」と言っ

も、決して過言ではないでしょう。近づき過ぎて、お互いがぶつかり合ったり、離れすぎて、お互いの影響がほとんど及ばなくなったりするものですが、そんな試行錯誤を何度も繰り返して、誤りを何度か繰り返して、喜怒哀楽を延々と繰り返しながら、ようやくベストな立ち位置や距離感を見つけて出せるものなのかも知れません。